

## 本校解剖學教室屍体統計

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/38404">http://hdl.handle.net/2297/38404</a>

爰ニ之レヲ贅スルノ要ナキモ其根治手術ト稱スル能ハザルハ一般ニ認ムル處タリ、唯竇瘻ニ排膿道ヲ求メ恰モ漏斗ノ如クセル處ハ大ニ理想的ナレト惜イカナ口腔ニ開口セルヲ以テ一定時間必ズ之レヲ栓塞セザルベカラズ、故ニ竇内ニ膿産スル膿汁ハ術前間接竇腔ニ蓄溜シテ鼻腔ニ溢レ鼻腔粘膜ヲ害シ咽喉ニ流出シテ咽喉頭、胃腸ヲ害スル一術前ト大差ナケン、其他栓塞ハ竇腔瘻ニ突出スルヲ以テ其周圍ノ粘膜又ハ肉芽等ハ堤狀ニ隆起シ爲メニ洗滌チナスモ尙充分ナル排泄ヲ得ザルニヨリ初メノ理想的ナリシ漏斗狀モ其効ヲ失ヒ殆ンド治癒ノ期ヲ見ル能ハサルニ至ルモノナリ。

私ノ實驗セル一例モ不幸ニシテ約二ヶ年後ノ今日尙ホ洗滌ニヨリ膿汁ヲ排シツ、アリ且ツ一定時間内ノ栓塞チナスガ爲メ膿汁ハ鼻腔ニ溢レ一部齶齒間ヨリ口腔ニ漏リ常ニ不快感ヲ惹起スト云フ唯ク穿開口ノ未ダ閉鎖セザルヲ幸トスルノミ

以上、下鼻道ヲ穿開スル法及ビ齒槽突起ヨリスル法共ニ甚ク小數ノ實驗ニシテ殊ニ后者ノ如キハ只一例ニ過ギザルヲ以テ私ハ爰ニ其比較批評チナスヲ得マセンガ一二ノ人ハ和辻氏法ヲ以テ他ノ手術法ニテ治癒セザル場合ニ應用スルチ可トスト論セシカドモ現今ノ如ク局所麻醉ニヨリ殆ンド些ノ疼痛ナク且ツ危險ナク施術セラル、ニ於テハ之レチ一般ニ推奨スベキモノト信ズ況ンヤ全身麻醉時ノ如ク多クノ介着ヲ勞スルノ要ナク唯一名ノ看護婦ニテモ足ルニ於テオヤ爰ニ此法ヲ敷衍シテ普ク同臭諸士ノ參考ニ供シ併セテ一般諸氏ノ實驗ヲ希フ次第デアリマス。

上顎竇ニ逆生セル齒牙ニ就テハバルデーベンハ不方向ニ發生スル齒牙ノ中、上顎竇ニ向フモノハ最モ稀ナリト説キタルガミツヘル、スピッツエール、ヂュボア其他二三氏及ビ久保氏ハ各一例ヲ又本年三月和田氏ハ大日本耳鼻咽喉科學會ニ於テ其一例ヲ報告セラレタリ。

私ノ例ハ一昨年三月兩側上顎竇蓄膿症ノ根治手術ニ際シ其左側竇腔内ニ發

(原著及實驗)

見セシモノナリ患者ハ松根某女三十五才ニシテ幼少時ヨリ膿様ノ鼻汁分泌過多及ビ鼻閉鎖等アリ近年ニ至リ鼻汁ニ惡臭ヲ帶ビ且ツ咽腔ニ流出シテ不快感アリ其他「ノイラスチー」標症狀ヲ具シテ來院ス之レヲ慢性化慢性上顎竇炎ト診シ右側ニ粘液茸腫ヲ發生スル全身麻醉ノ下ニ兩側根治手術ヲ行フ其左側竇腔ノ側壁鉗除ノ際甚ク厚徑チ有スル骨片ヲ鉗シタルモ鉗截シ能ハヌマ、之レヲ牽引セシニ豈計ランヤ骨鉗子間ニ長キ齒根ヲ見ントハ之レチ取りテ檢スルニ其形狀番圓錐形ニシテ尖端(齒根)鈎狀ニ屈曲ス全長二十二「ミリメートル」ニシテ齒冠部ハ黑綠色粗澁岩狀ヲ呈シ稍正方形ニシテ八「ミリメートル」厚サ五「ミリメートル」アリ齒根トノ間ニ縊レチ生シ頸チナス頸部ヨリ七「ミリメートル」ハ軟部チ附着シ残り七「ミリメートル」ハ鈎狀ニ屈スル前根尖端ナリ其重量一、五「グラム」アリ尙竇内チ觸診スルニ今一個粗澁ナル骨突起アリ之レチ鉗除セシニ頸部ヨリ折レタルモ前者ト同様ナル齒冠部ナリキ(重量〇、三「グラム」)即チ二個ノ逆生前牙チ有セシナリ今爰ニ示ス標本ガ即チ其レデアリマス

患者ノ左側上顎齒ヲ檢スルニ第二小臼齒第一、第二大臼齒ノ三個欠除シ平滑ナル齒齦ノミデアリマス麻酔醒覺后問診シマスニ此部ニハ未ダ生齒セズト、其他逆生齒時ノ異常疼痛ヲシキモノハ記憶セズトノコトデアリマシタ。「エムピエーム」ト逆生齒牙トノ前後關係モ不明デアリマスガ齒冠部ノ甚ク侵蝕サレシ点ヨリシテ餘程長年月ヲ經シモノト思ハレマス尤モ右側ニモ左側ト同程度(右側ニハ中鼻道ニ稍大ナル粘膜茸腔有セシ位ナリ)ノ「エムピエーム」ガアリマシタノデ尙更其邊ノ關係ガ不明デアリマス、故ニ私ハ唯事實ノマ、チ報告スルニ止メル次第デアリマス (二二)

本校解剖學教室屍體統計

中野鑄太郎

自明治二十一年 解剖屍體年別累計表  
至明治四十二年

年 號	本 校 解 體 總 數	解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 總 數	解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 男 女 別		解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 中 病 理		本 校 解 體 總 數 對 解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 總 數 之 百 分 比	比 例 分 解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 總 數 對 解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 總 數 之 百 分 比	解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 總 數 對 解 剖 學 教 室 収 容 屍 體 總 數 之 百 分 比	
			男	女	男	女			男	女
21	13									
22	9									
23	17									
24	27									
25	19									
26	19									
27	20									
28	23									
29	47	4	2	2	0	1				
30	31	12	7	5	4	2	38,7	50,0	58,3	41,7
31	42	27	11	16	4	11	64,3	55,6	40,7	59,3
32	66	32	23	9	12	5	48,5	53,1	71,9	28,1
33	27	21	9	12	3	4	77,8	33,3	42,9	57,1
34	31	23	11	12	4	1	74,2	21,7	47,8	52,2
35	66	54	26	28	5	10	81,8	27,8	48,1	51,9
36	72	59	39	20	14	10	81,9	40,7	66,1	33,9
37	81	71	34	37	13	18	87,7	43,7	47,9	52,1
38	69	57	31	26	6	5	82,6	19,3	54,4	45,6
39	76	67	42	25	5	3	88,2	11,9	62,7	37,3
40	63	50	26	24	3	1	79,4	8,0	52,0	48,0
41	74	68	36	32	7	3	91,9	14,7	52,9	47,1
42	85	68	35	33	7	10	80,0	25,0	51,5	48,5

(原署及實驗)

自明治二十九年九月三十日 解剖學教室收容屍體數月別表  
至全四十二年十二月三十一日

年 月 號	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	計
29	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	4
30	0	1	1	0	2	0	0	0	2	3	3	0	12
31	2	3	0	0	1	1	0	0	2	7	2	9	27
32	2	7	5	2	1	0	0	1	1	4	5	4	32
33	2	3	3	3	0	1	1	0	0	3	1	4	21
34	0	0	1	2	2	2	2	2	2	1	4	5	23
35	3	7	3	5	3	3	3	5	7	6	4	5	54
36	6	3	3	4	2	5	5	6	4	10	7	4	59
37	5	7	5	4	5	5	6	5	7	7	8	7	71
38	6	9	5	8	6	2	2	4	5	3	4	3	57
39	6	8	2	5	3	3	6	4	9	4	9	8	67
40	5	10	3	5	5	5	7	3	4	0	2	1	50
41	5	6	3	6	6	4	5	5	6	10	5	7	68
42	7	6	9	4	4	2	5	3	8	3	5	9	68

自明治二十九年九月三十日  
至全四十二年十二月十一日 解剖學教室収容体年齢別表

年 齡	男	女
5 歲以下	8	12
10 ”	3	7
15 ”	4	1
20 ”	19	17
25 ”	37	20
30 ”	25	22
35 ”	25	24
40 ”	32	7
45 ”	23	14
50 ”	27	14
55 ”	27	13
60 ”	25	16
65 ”	28	24
70 ”	23	22
75 ”	10	27
80 ”	11	20
85 ”	4	13
90 ”	0	7
95 ”	0	1
100 ”	0	0
105 ”	1	0

備考 比例數ハ、以下一位ニテ四捨五入ス

明治二十九年九月三十日以前ニ屬スル解剖學教室収容屍體數ハ不明ナリ